



館林市アクションプログラムとまちづくりについて

小林 信議員



中心市街地の人口減少

質問 館林市アクションプログラムは、平成29年3月に策定されたものです。まず、人口問題について伺います。地域別では赤羽地区、多々良地区は増加、六郷地区は横ばい、館林地区は減少となっております。中心市街地活性化の問題では、市

街地人口が減少し、顧客を郊外商業地域に奪われ、厳しい状況にあると分析しているが、実情はどうなのか。

答 中心市街地活性化基本計画での中心市街地における人口の減少は13・4%です。市全体の減少は6・8%ですので、中心市街地

の人口減少がかなり進んでいます。市内全体の小売業は、この18年間で39・5%の減少ですが、中心市街地では51・4%減少しています。人口減少と同様、中心市街地のほうが減少率が高いこととなります。

質問 中央通り線の拡幅と現状は

少が大きくなっています。が、さらに細かく見ていくと、例えば本町一丁目では、64・5%に落ち込んでいます。まちなかの人口減少が

館林市のまちづくりにとつて大きな課題になっていきます。商店街の減少も大きな課題で、商店街が成り立たない現況にあると思います。が、中央通り線拡幅の現状と展望について伺います。

して、住宅や公益的施設をバランスよく確保し、複合的な機能を誘導することが望ましく、例えば居住・文化・教育・福祉・行政・観光などの機能を導入すべきと考えます。中心市街地のにぎわいを創出するには、商業政策だけでは限界があり、まずは人を住まわせることに力を入れることが重要です。今後は関係部局と横断的に連携を強化し、こうした課題に取り組んでいきたいと考えています。



新型コロナウイルス感染症の影響と対策について

篠木 正明 議員



質問 先日、「新型コロナウイルス感染症重点対策」を発表しましたが、策定する上で考慮した点は何か。

答 重点対策は、緊急支援時期と回復期の2つの時期に分けて考える必要があります。緊急支援時期では、医療や産業、教育など重要な社会基盤が元に戻れない

ほど弱体化しないよう、守り・維持する対策が重要と捉えています。その上で、回復期としてアフターコロナ社会を見据えた対策も重要と捉えています。重点

対策の目的は、緊急支援時期に比重を置き、市民の命を守る、市民・事業者の生活を守り抜くことでした。

質問 今回の重点対策で不十分な点やこれから必要な対策は何ですか。

答 これまでは、医療崩壊を防ぐとともに、雇用と事業と生活を守り抜くことに比重がかけられていました。今後はV字型回復期としての視点も持ち合わせなければと考えています。飲食、観光、イベントなど、落ち込んだ需要の喚起へ徐々にシフトしていきたいと考えています。また、保育の場の改善が必要と認識

しています。市内のフードバンクや子ども食堂と新たな連携を築き、子どもの貧困対策を講じていくつもりです。加えて、館林厚生病院が地域の基幹病院として、安定した経営ができるよう財政的なバックアップが必要だと考えています。国の第2次補正予算を活用し、市の第2次重点対策を取りまとめる予定です。

質問 長期の休校によって、児童生徒に学力だけでなく心の問題など様々な影響が

出ています。子どもたちに学びとともに人間形成や遊びや休息をバランスよく保障する柔軟な教育が必要だと思えます。芸術鑑賞教室や移動音楽教室を中止にしましたが、出来るものは実施する観点が必要だと思いますが、どう考えますか。
答 子どもたちにとって、文化に触れる機会は需要だと考えていますが、「3密」が避けられないことや行事の優先順位を考え、中止と判断しました。